



高井蘭山翁揖錄 全本三拾冊  
有坂蹄齋老人圖 五編五冊

# 星月夜顯晦錄

書賈

江戸 文溪堂  
大阪 群玉堂

星月夜顯晦錄五編叙



夫虜亂世為用武。在治朝必以

文故。周基八百。漢祚四百。文武

兩道。治世安民之經緯。理政綏

邦之綱紀也。文勝武則急。武勝

文則暴。文武旣能。後可譚經

門 遠 13  
號 2208  
卷 21

濟為。破。之。右。車。以。稿。而。不。可。  
行。鳥。安。其。翼。而。不。可。飛。毛。如。古。大。  
將。開。闢。基。業。於。鏑。倉。克。殘。孽。殺。  
宇。內。肇。清。惜。哉。禮。樂。不。興。及。之。代。  
羽。林。正。伐。出。權。臣。暨。三。代。有。府。血。脈。  
斷。絕。音。子。遺。之。間。僅。四。十。餘。年。比。

盧。生。之。夢。殆。為。怪。是。好。武。不。好。  
文。其。其。大。然。也。北。條。秦。時。尚。路。於。關。  
東。不。日。而。致。垂。拱。無。為。之。治。能。察。  
此。理。也。顯。晦。錄。嗣。刊。法。行。千。世。  
今。茲。五。編。成。罔。筆。於。此。之。部。閱。之。  
活。亂。與。之。之。樞。機。既。在。目。睫。云。

星月夜王維序

文政乙酉孟春東武高井伴寬思明述



神通外岡北海書



星月夜顯晦録五編

物目次

卷之壹

○朝比奈義秀孝し義に感<sub>ん</sub>武田信光北条朝時を助

足利上総三郎義氏馬術川を飛越<sub>つ</sub>図

武田悪三郎信忠命と御父信光に代人<sub>と</sub>する<sub>る</sub>図

○横山時兼着陳御所方防戦手配

若宮大路合戦横山時兼勇戦千葉成胤故軍の事

卷之二

○鎌倉所々合戦小物資政義盛と刺殺<sub>ん</sub>と計

北条泰時乱箭と発<sub>ち</sub>ち古郡保忠と愕<sub>と</sub>図

大江廣元政所へ立<sub>ち</sub>る<sub>る</sub>図

○実朝の鶴岡八幡へ願書と納り北条泰時謀略

土屋大権介美清鶴岡八幡の神鎬に中図

卷之三

○和田美盛宇野合戦一族悉滅亡

朝比奈美秀後殿して戦場と追図

○北条泰時仁心長沼五郎実朝の政道と罵

和田一族由井の濱に梟首の図

富田三郎剛力と磔罪科恩免とあはる図

卷之四

○陳和卿の命して入宋の大船を造らるる

狩野行光和歌と徹く馬と献る図

由井が濱みく大船を造る図

○禪師公曉鶴岡別當に補て実朝の轉任大江覚阿諫争

禪師公曉尼公へ御對面の図

卷之五

○周易九龍の悔ある辨

禪師公曉雷霆と観究る図

○実朝公右大臣拜賀の為鶴岡へ社叅

鎌倉天養恠異の図

実朝公鶴岳社叅供奉行列の図

己上

惣目次畢

頃投百  
歲命一  
不夫失  
雄交英

横山右馬允時兼  
横山太夫平經兼  
子孫武藏因住人  
權守時廣ノ嫡男  
幼名太郎ト云リ  
馬ノ達者武勇ノ  
英士ト義盛兼テ  
忠義ヲ知故一味ニ  
建曆二年  
一族俱ニ戦死ス



與忠  
犯罪  
發身  
全却

富田三郎為任

多田満仲次男大和守頼親ノ  
遠孫大和源氏ノ裔流タリ  
綱カ無双兼テ和田戈盛カ  
忠貞ヲ感ジ仁心ヲ慕  
最期ノ軍ニ與カン結城  
朝光ニ捕ラル角二本  
罪ヲ免サル



宋朝ヨリ日本ニ  
来リ南都東大寺ノ  
大佛ヲ造立スル  
カウセウノ巧匠  
周刻スルノ匠  
碩學博識未發ノ  
希相仙骨京師ニ  
度シ飄然トシテ  
宋ニ既去レリ

佛像真堅牢  
大船虚腐朽

宋朝佛匠陳和卿



長尾新六定景

鎮守府將軍村岡五郎  
評忠通ノ三男鎌倉  
権頭景成ノ嫡孫五郎  
景政女代ノ孫平家ニ  
随テ頼朝々々敵シ  
貞田与一ヲ討後恩免  
有テ鎌倉ニ忠勤ス  
建保七年悪禪師  
公曉ヲ討

竭忠仗幕府  
振劔斬禪師



其出處諸説區々實拙ヲ得ス  
 後鳥羽帝召テ寵愛淺カラズ  
 窈嬋媚トシテ巧笑眉目媚ヲ街フ  
 謙テ歌道ヲ好無双ノ頭岡タリ帝ニ  
 隱岐ノ配所ニ從ヘリ

三千  
 只一人  
 却見  
 配處月



白拍子 龜菊

生喰今雖亡  
 先登何不有

宇多源氏佐々木源三  
 秀義惣領大郎左衛門  
 少尉定綱四男盛綱  
 高綱ハ甥ナリ北条  
 泰時ノ妹ヲ娶ル  
 乱ニ當リ先陣高  
 名近江守ニ任ジ評定  
 衆ニ加入道シテ虚假  
 仏ト号ス仁治三年三月  
 六日卒六十二歳

佐々木四郎左衛門信綱





星月夜頭晦録五編卷之一

目録

○朝比奈茂秀孝と義に感し武田信光小条朝時を助  
且利上総三郎茂氏馬御川を飛越圖  
武田悪二郎信忠命を御父信光に代んとする事

○横山時兼着陳御所方防戦手配  
若宮大路合戦横山時兼勇戦千葉成胤攻軍の事

星月夜頭晦録五編卷之一



朝比奈茂秀孝と義に感し武田信光小条朝時を助  
西雄争時必ど一方に傷とつり鎌倉三代の武乃実朝公の時小  
北条相模守義時外戚りて政柄を握邪曲の中ひ多りれ大時小  
情されば諸長彼らも群集して阿偏中に加田左衛門尉茂盛唯一人の鎌倉  
三代の旧臣殊に諸士列當ふり。智仁勇を兼備し忠義を二のたぎ  
比の國を承継承く子孫傳るんとの事。此の事。小条朝時不仕た  
るに茂時ハ尼スの川見貞厚があつた非道邪曲を以て茂盛領人  
二まのまはし。茂盛抑ふ君の爲國承継の爲小条朝時亡さん。既に  
一族を催し建曆二癸酉年五月二日軍成発し一番小条の事を攻援

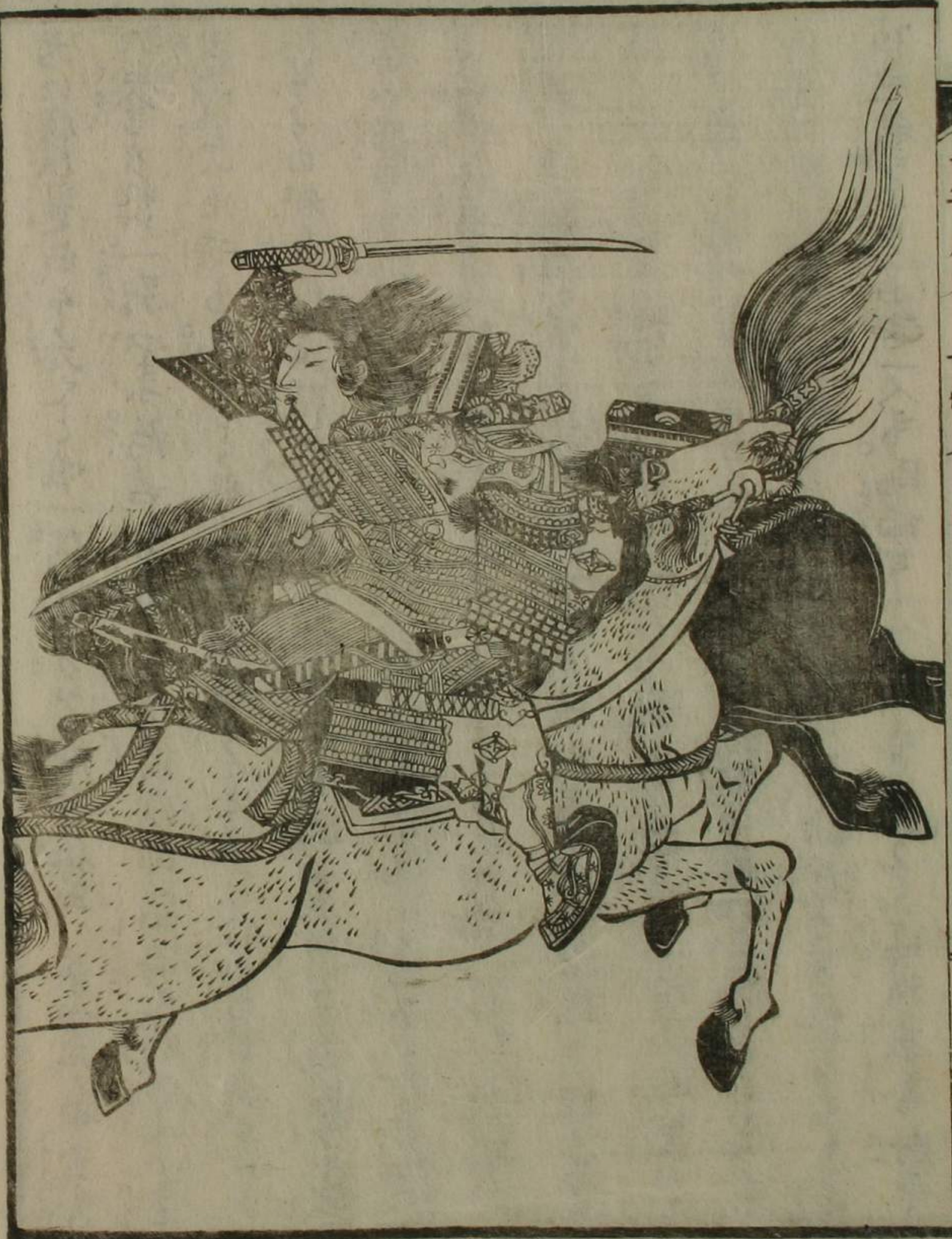






出討んものとは法義書の方死きて死に忍ぶ小糸一太助の兵がも結城  
 小山依木守邦官の葉波多印鳩津大友を初に長門法義書と  
 の道成す之君を守護しる中々小糸修亮春時此撥乱の偏小  
 又美時の所行邪曲なるよを犯すと思がぬ諸人小抽金成性  
 防戦を才相模次郎朝時と呼んでやうかへ美秀が猛勇一人も當る  
 ののや一此候もて此傷も打破られ法義書追乱入せば君又大に  
 危うん女死向く美秀と戦成速に討死せよ女も先年朝  
 内よかに海に恩を仕へり今承人戦討死せば君忠又一の孝美秀  
 への恩美も主べ。朝は素い元来美成重んじ懐誠如母主合演死せん  
 敵は美秀其志を感じ強て戦ま。案一度退は此間又死来る人  
 あり。今もとと切られ朝時も兼て又美時と遠ひ理美の兵あり

大に恨む是れ我々如く唯一強味方を離れ強出る必也。美秀  
 の出守りれば一別以未形や美秀友相模次郎朝時之我ら忍小  
 恩は美片時も忘るこれ。是れ我附せんと欲されども其時を  
 忍ぶるの処斗ふも此戦乱出ま。敵味方と別る上力及及思  
 忍む忍び。戦場に私育ぐべ。唯はく一我を逐忠孝に備ん  
 とん必忍あある。柳も用於らんと。つらもれが美秀美て小糸の  
 氏族の。美健気者。此辺の又美時非道きて國政を妨る。又  
 我一族國家の。小其罪我向んと欲して此美の。既ふ此辺の。又  
 又誠徳善道に存る。子たさるして親を。曲ひ。美に。我  
 んの父の罪我累の。似たり。我速に討て父の代に。へ。是  
 あり。我と。小糸一人も助ゆ。と。と。馬。討



武田忠三郎信忠  
余代抑又信光子  
代胡比奈と  
茂園

なる朔附を刀さし管以渡合血氣の若者秘術以て一戦せしり朔  
 附頗壯力の勇士なれ共長秀に較ぶるにわづらふ事なきなり  
 秀がまに討てんと欲思ひ一旦も退ど合戦隙と戦ゆる長秀元来長  
 に強た勇士なれば朔附が死に感下可憐若者と殺さん  
 不便又の頑ゆり悪は乃小子の長致知る會以物つ小助ゆさんと  
 思つた朔附の正しく長附が死なれば免さば又の事おもむく居よ  
 我す小退んものぢれが凍りつ小嚴く我を返く不存なぐん只  
 一子首を斬らんめのとこまし喚て一打擲りれば朔附忽ち刀をもち居  
 され居流るるも我無の処長秀附入一太刀首を返をさしり朔  
 附が馬の古後致衝りれば乃の致よ馬よめたる人倒す墮る  
 且の長秀さく儲く腕も死せしめられと云於る我引返策に當

て走去是小信く小条が肩を執末朔附以抱し陳中引退長秀乃  
 既に法に斬り退むるべきに朔附が孝義を感し去るる奥泰附大少候  
 び先以保赤させ自ら進み敵破らんといふ

横山時兼着陳山所方防戦手配

此時土屋大守が長清古及新九工門耐保忠此兩人の傷四篇の事あり所々  
 ろく教度の我にても人困る進む終に夜もとや曉に及びる大  
 前田九工門耐長盛下都反侍一先引退人馬の息を休んと惣勢を  
 追討せしむ波多野中勢次郎忠時波田二郎長末且利三  
 郎義氏筑後六郎知重木子傳務りて追うけ米町の过大町大橋まで  
 来る妙小土屋長清古郡保忠きて返す武勇を承け延るるは





到着これらに。城は小新加らば。跡大事なるべし。法は成り口こそ  
防せん。先着宮大降い。山条義時が舎弟時房。山条修理亮奉時  
大町の大洛い。豆利上総三郎義氏名。城の邊に守頼茂。大倉谷は。法は  
五郎。矢際。結城。左門。耐。朝光。由井の。後。い。る。系。新。助。成。能。由。利。中  
八郎。惟。久。そ。外。法。長。城。八。方。に。あ。ら。御。の。用。意。成。る。此。折。も。若。我  
中村。二。宮。河。村。の。中。子。の。勢。を。引。く。武。藏。大。路。福。村。の。四。三。を。出。し。あ。り。後。小  
陳。成。る。て。知。ど。敵。も。味。方。を。難。き。也。義。時。は。反。守。使。を。心。て。招。と  
と。ど。も。此。事。は。今。度。發。初。の。故。を。知。ど。義。時。深。夜。を。ぎ。振。る。り。思  
し。る。爰。小。未。く。軍。の。旗。を。派。入。し。せ。ん。了。等。也。振。れ。小。意。せ。ば。使。立  
ゆ。く。此。と。や。れ。ば。義。時。君。成。初。若。彼。等。逆。從。小。加。勢。仕。は。此。上。の。難  
義。め。い。ん。早。く。書。紙。以。て。招。ち。た。由。り。し。る。是。も。角。も。能。に。斗。へ

と高命あるころ。義時早速書紙添させ再び使を差遣  
しる。其書画にのり

和田丸。湯門。土屋。大。学。右。郡。丸。湯。門。横。山。の。者。成。係。及。を。記  
君。成。村。も。と。り。ど。も。別。の。事。取。き。と。敵。の。散。り。ら。る  
内。急。ぎ。付。多。く。事。せ。べ。し。近。辺。の。者。亦。も。此。由。觸。て。具。是。也

五月三日 御判有之

大膳。左。夫。廣。元  
相。摸。守。義。時

彼。軍。君。成。判。め。た。成。り。と。あ。い。三。浦。一。堂。の。係。及。之。と。思。ひ。判。り。し  
愈。し。山。所。方。と。り。り。か。か。り。成。防。人。と。戦。場。に。行。る。

星月夜頭晦録五篇卷之一終

